

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立加茂小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

自ら学び、友と伸びる、心豊かな子どもを育成する

<めざす児童像>

- ・(か) 体をきたえる子
- ・(もっ) 目標をもってがんばる子
- ・(こ) 心やさしい子

今年度の指導の重点

互いに認め合い、支え合う心をはぐむ指導  
主体的な学びで学力をつけ、友と学ぶ喜びをもたらす指導  
健全な心と健康な体をはぐむ指導

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国調査(小6)

国語Aは、県(全国)平均と比較すると正答率が高い。算数Aについては、県(全国)平均よりかなり高い。特に国語Aの「漢字の書き」の問題で、「シャワーを**あ**びる」、「浴**び**る」は、85.4%の正答率で、県平均より23.1ポイント(全国平均より27.0ポイント)高かった。

算数Aは、16問中1問だけ県平均を0.3ポイント下回ったが、残り15問はすべて県平均(全国平均)を上回った。算数Aでは、「直方体の展開図を問う問題」で85.4%の正答率があり、県平均を12.2ポイント(全国平均を10.0ポイント)上回るなど、多くの問題で正答率が県平均(全国平均)を大きく上回った。

国語Bについては、県平均と同程度である。

算数B・理科については、県(全国)平均を下回った。

基礎的な知識・理解・技能はまずまずの結果である。それらを活用する思考力・判断力・表現力が今一歩であった。

岡山県調査(中1)

国語、数学、理科、社会すべてで県平均を下回った。

国語の「漢字の書き」では県平均を上回っている。

数学と理科は、標準スコアは過去2回と同程度なので、小学校在籍時の状況を考えてよくできている。

国語の「読むこと」、社会の「歴史」、数学の「量と測定」の領域に課題が大きかった。

【学習状況調査の結果】

<良かった点>

将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合が県(全国)平均と比較して高い。学校に行くのは楽しいと回答した児童が93.8%と多く、県平均より5.7ポイント高い。学級みんなでやり遂げてうれしかったことがあると答えた児童も95.9%と多く、県平均を8.8ポイント上回っている。近所の人にあいさつをしている児童は、95.5%と、県平均と比較して2.8ポイント高い。地域の行事に参加している児童が多い。本校の児童は、比較的良好に新聞を読んでいる。原稿用紙2~3枚に感想文を書くのは、それほど難しいとは思っていない児童が県(全国)と比較して多い。

<課題となる点>

毎日、同じくらの時刻に寝る児童の割合が県平均と比較して低い。普段(平日)、テレビ等を3時間以上見たる児童が45.9%と、県平均と比べて11.8ポイント高い。普段(平日)、1日あたり1時間以上家庭で勉強する児童の割合が60.4%と、県平均と比べて5.7ポイント低い。普段(平日)、まったく読書をしない児童の割合が25%と、県平均と比較して6.9ポイントより高い。家で学校の予習や復習をする児童の割合が県(全国)平均と比べて低い。学校で友達と話し合っている自分の考えを深めていると感じている児童の割合が、県(全国)と比較して低い。

成果と課題

国語A、算数Aで、正答率が県平均(全国平均)を上回るなど、学力向上の取組の成果が見られる。国語Aでは、「言語についての知識・理解・技能」が特によくできている。本校の「漢字くんぐん週間」の取組の成果が出ている。

算数Aでは、正答率80%以上の成績上位層が多く、60%未満の成績下位層が少なかった。「計算くんぐん週間」の取組の成果が出ている。

国語B、算数Bは、平均を下回ったが、前回の学力調査と比較し、全国平均との差が縮まっている。国語Bは、ほぼ全国平均と同程度であった。

基礎的な知識・理解・技能は身に付いているが、それらを活用する思考力・判断力・表現力に課題がある。

文章(特に、長文)の中から解答に必要な情報を的確に取り出す力が不足している。

前回調査より改善しているが、依然として普段、家でテレビ等を見る時間やゲーム等をする時間が、全国平均と比較して多い。また、普段、家庭で1時間以上学習する児童が全国と比較して少ない。

課題に対応した改善方法

国語科、算数科等の教科学習では、基礎的な知識・理解・技能を習得できるよう、朝学習や家庭学習などで繰り返し復習することで習熟を図る。

思考力・判断力・表現力を育てるために、授業では、自ら考え、判断し、解決する問題解決的な学習を展開し、自分の考えをもち、その考えを表現する授業になるよう、授業改善を図る。

読解力を育成するために、読書活動を推進する。具体的には、朝読書、親子ふれあい読書、読書ボランティアの読み聞かせ等を通して、読書好きの児童を育てる。

家庭学習の充実を図り、児童に学習習慣を身に付けさせるために、保護者に学年×10分+10分の家庭学習時間を伝え、家庭の協力を得ると共に、教師が適切な課題を示すよう工夫する。

家庭でテレビ等の視聴時間やテレビゲーム等をする時間を少なくするために、保幼小中の連携した取組として、ノーマディア週間(減メディア週間)をPTAの重点施策として年2回行う。

取組の検証方法及び検証時期

学力については、6年生は中学校1年4月に行われる岡山県学力状況調査で、4・5年生は、この10月末から11月に実施する岡山県学力定着状況たしかめテストで、3年生以下は、次年度当初に行う、標準学力テストにより検証する。

授業改善については、一人1回の公開授業を実施し検証する。授業改革推進リーダー、指導主事からの助言を受ける。

家庭での読書時間については、親子ふれあい読書週間の記録カードにて実施状況を確認する。

PTAと協力して行う、ノーマディア週間の取組も記録カードを作成し、実施状況を確認する。今年度第1回目は、10月15日(木)から10月22日(木)の8日間行う。第2回目は3学期に実施予定。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

平成28年度全国学力・学習状況調査で、国語AB、算数ABのすべてで県平均を上回るように、5年生には次の取組を継続する。

- ・ 落ち着いた学習環境で、じっくりとこつこつと学習するよう、学習規律の徹底を図る。
- ・ 基礎的・基本的な学習だけでなく、思考力・判断力・表現力を育てる学習の場を設定する。
- ・ 読解力を育成するために、読書活動を充実する。親子ふれあい読書の実施率を80%以上にする。
- ・ 保護者と連携して、家庭でのテレビ視聴やゲームの時間を減らし、普段、1時間以上学習する児童が70%以上になるようにする。